

坂城町高校生タイ国研修

戸谷 梨華

★はじめに

私は、以前から海外の文化や言葉に興味がありこのタイ国研修でもタイで活躍している坂城町の企業の見学はもちろん、食事や現地の学生との交流を通して日本との違いや今まで訪れた国との違いを肌で感じたいと思いこの研修に参加しました。

研修に参加する前はタイのイメージは少し治安が悪くとにかく暑いというものでしたが実際に参加してみて、そのイメージ全く違うものになりました。人はみんな優しくニコニコしてくれて、日本のことを良く思ってくれている人がとても多かったです。



タイの空港に着いて最初に思ったことは“蒸し暑い”でした。日本と違うにおいがして、日本とは違う暑さでタイに来たという感じがしました。

★企業見学

『株式会社桜井製作所タイランド』

桜井製作所さんでは鉄の板をプレスして部品を作っていました。坂城町にある工場より女性の方が多いという印象を受けました。

工場を見学する前に聞いた説明では、スポーツデイや社内旅行、新年会などの働いている人同士の仲を深める活動が活発に行われているのを知り、実際に働いている人を見てみんな仲良く信頼しあっているのだなと思いました。これは2017年度のタイでの顧客評価がGOODかBEST QUALITYととても高い評価をもらっていることと関係があるのではないかと思います。

タイの方が「なんでこの会社で働こうと思ったのですか」という質問に対して「みんな工場長さんが大好きだから」と答えていて、タイの人はユーモアもあふれていて素敵だなと思いました。さらに、日本語が話せるタイの方に「なんで日本語を勉強しているのですか」という質問をしたところ、「日本人は優しいから」という答えが返ってきて、そのようなイメージを持ってくれていることをうれしく思いました。それと同時にそのイメージを崩さないようにと思いました。

それと、桜井製作所さんと深く関わりがあるDrカセー・チャナウォンさんが日本を訪れ、坂城町村山町長さんを訪問したりと、このタイ国研修がはじまったきっかけが桜井製作所さんかもしれないということがわかりました。



〔日精樹脂工業株式会社〕

2012年に、タイに進出しました。

日本人社員7名、男性社員37名、女性社員14名の58名の方が働いています。タイ工場では一日に1台、月に約30台を目標に射出成型機を生産しています。

日精樹脂さんはタイの他にも様々な国に工場を進出させていています。海外に工場を作るメリットは日本より安く部品が仕入れるため、日本と同じ製品でも買い手が求めやすい製品になるとのことでした。

日精樹脂さんでは7トンから1300トンの射出成型機を作っており、タイ工場ではその中間クラスをつくっています。

タイ工場のお主な取引先は、50%がASEAN(タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアなど)残りの50%がアメリカで世界では日本の会社で作られたということに信頼があります。

工場はとても広く、部品がたくさんありました。仕事内容は、経理、部品の発注、部品の確認、組み立てと検査でした。私がとても驚いたことは検査には1台につき約4日かかるそうで品質を守るためには必要不可欠な作業なのだそうで、すごいなと思いました。

工場の中には、作業がスムーズにできるように様々な工夫や温度の調整など細かいところにもこだわっていて日本品質が保たれる理由がわかったような気がしました。

海外で働くということは自分の視野を広げてくれるとてもいいことだということも教えてくださいました。これからは自分に制限をかけずに色々なことに挑戦していきたいと思いました。



〔都築製作所〕

都築製作所さんでは2011年にタイに進出し、その年にはタイで大洪水があったそうですが、2011年といえば日本でも東日本大震災があり同じ痛みを知りながらそれを乗り越えてきた努力を感じることが出来ました。今回の研修でタイと日本は共通点が多いというお話がありましたが、このようなことから同じ境遇にありながらも前向きに進もうという点で共通点を見つけることが出来ました。

アジアで一番大きいアマタナコーン工業団地というところにあり、働いている方は151名うち日本人が3名で、工場がとても大きく更に増築するそうなので驚きました。

都築製作所はタイ都築の社長さんのおじさんが疎開先の坂城町で始めた会社なのだそうで、その話からなぜ坂城には工場が多いのかというお話をさせていただきました。戦争中、疎開先としてなぜ坂城町が選ばれたのかというと、当時隣の上田にはまだ武士の名残で様々なしきたりがありましたが、それに比べ坂城町には厳しいしきたりがなくは疎開しやすい町だったからだそうです。それでも生活していくには何か自分で仕事をしていかないとけないということで、たくさんの方が工場を作りその会社が今でも活躍しているということがわかりました。今の坂城町は疎開してきた人たちの力でできていることに感動しました。

お話を聞きながら、タイの女性社員の方が作ったマンゴーを使ったお菓子やタイのお菓子をいただきました。トーンップと言うお菓子はろうそくでおいをつけたお菓子で、食べる相手にリラックスしてほしいという思いから出来ているそうです。タイにいる間、出されるおしぼりもすべていい香りがしてそれがリラックスしてくれるようにと、心づかいが日本人よりも行き届いているのではないかと思いました。マンゴーを一人一つずつお土産に下さりあんなにおなかいっぱいマンゴーを食べたことがなかったので、とても幸せな気持ちになりました。



【日本大使館】

大使館に入るときに、一台ずつしか入れなく、携帯電話はロッカーに預けなくてはならない。大使館は思っていたいじょうにセキュリティーが厳重でした。どこの部屋に入るにもドアを2つ以上通らなくてはならず迷路のような作りだと思いました。ドアが多い理由は、もしデモなどがあつたときに中に簡単に入ってこられないようにするためで、お城のような作りになっているそうです。さらに、それぞれの部屋に秘密の通路などがあり、もしもはいられてしまった時のための対策もしっかりしていました。このように、大使館がしっかり守られているからこそ、私たちが安心して楽しい旅行が出来るのだなと思いました。

今、タイでは日本の食文化やアニメなどが若い人たちに人気で、日本人も受け入れてもらいやすい状況です。しかし、今までにも2度日本ブームのようなものがあつたのですが、それは2度とも日本人自分勝手な行動により自らの手で壊してしまったとのこと。せつかく、日本にいいイメージを持ってもらっているのに壊してしまうのはとてももったいないことなので、タイの人を大切に、マナーを守りたいと思いました。

日本で昔から怖いとされているものは「地震 雷 火事 おやじ」ですが、タイでは「ゾウ コブラ 古い召使」だそうで、文化のちがいを感ずることが出来ました。

私は、この研修中ずっとタイの人はニコニコしておおらかな人が多いのだなと思っていました。そのような人が多いのは、昔、山で集団生活をしていた時に他の民族同士が鉢合わせた時に、殺し合いを始めないようにだという歴史的背景があるのがわかりました。

お話を伺っていて、私の心に残つたことは、大使をしていてよかつたは何ですかという質問の答えです。大使の仕事は、人に案内をしたり、支えたりと相手のために何かをしてあげることがほとんどだそうです。言い換えれば他人の道を照らしているということで、その道を先導して照らすということは自分もその道を歩くことが出来るというものでした。私も、人のために何かをしたくなりました。

タイと日本の関係が今よりもっと良くなるといいなと思いました。



★最後に

私は、今までいくつかの国に訪れましたが、タイの人達は私達をたくさんおもてなししてくださり、心が温まりました。

また暑い太陽のもとで育ったマンゴーやパイナップルは格別に美味しく乾いた体にしみわたりました。また、タイ料理をあまり食べたことがなかったので、緊張していましたが、実際に食べてみて思っていたより辛くしびれました。しかし、大きなエビやカニ、日本とは香りや味のことをたくさん食べることが出来幸せな気持ちになりました。

そして、この研修で私の夢が1つかないました。それは、ゾウに乗ることです。とても高くて、ゆらゆら揺れてゾウの肌は思っていたより硬くてざらざらしていました。

タイの学生との交流は、積極的に日本語で話しかけてくれて、日本が好きと言ってくれてとてもうれしく、自分の英語の力試しにもなり、いろんな話が出来て、これからもっと勉強したいという気持ちになりました。

この研修を通して、坂城町の良さを再発見することが出来ました。また、世界の見方などがまた少し変わったので、いろんな角度から日本を見つめて、これからも成長していきたいと思います。

